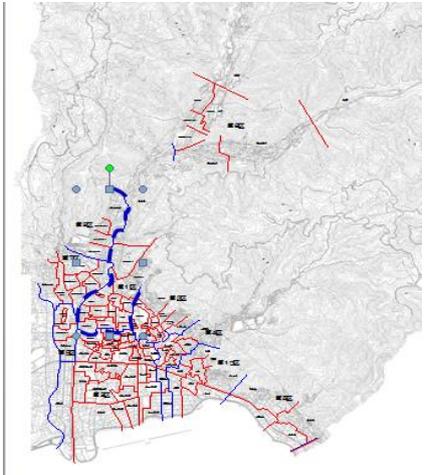


第一区（長野県下諏訪町）

1. 第一区の概要

(1) 地域特性

- ・人口 3,000 人、世帯数 1,060 世帯、面積 2km² 高齢化率 35%
- ・多くの警戒区域を持ち一級河川砥川と隣接する地域が多く過去に洪水被害も起きている。
- ・南北 2.5km、東西 800m で東西は急傾斜地である。
- ・役員は、地区住民に対して、災害時の避難について日頃より意識啓発している。
- ・14 の町内会で構成しているが、地区内に災害時に利用できる避難場所や避難施設がない町内会がある。
- ・避難路（緊急輸送道路）が国道 142 号 1 本しかない。



下諏訪町第一区の位置図

(2) 過去の災害履歴

- ・昭和 56 年から昭和 58 年にかけて、集中豪雨、台風による影響で諏訪湖周辺が浸水
- ・昭和 59 年に長野県西部地震発生
- ・平成 18 年に集中豪雨で町内小河川、承知川氾濫及び諏訪湖周辺が浸水

(3) 想定災害

- ・台風や集中豪雨に伴う土砂災害
- ・一級河川砥川の洪水被害

2. 第一区における従来の取組状況

(1) 従前の防災活動、訓練の実施

- ・自主防災会の役員を始め、災害への関心度が高く、地区住民に対して、災害時の避難等について日頃より意識啓発を行っている。

(2) 検討体制の整備

平成 26 年 11 月に、自主防災会会長、区議会議員、町内会会長等の地区の役員にて、地

区防災計画作業部会を立ち上げた後に、「地区防災計画策定委員会」を設置した。

地区住民主導による地区防災計画の策定は、地区住民との十分なコンセンサスが必要との観点から、平成26年度の下半期を利用して、準備期間と位置づけ、事前準備を行った。

3. 第一区におけるモデル地区採択後の実施状況

(1) 第一区の住民ワークショップ

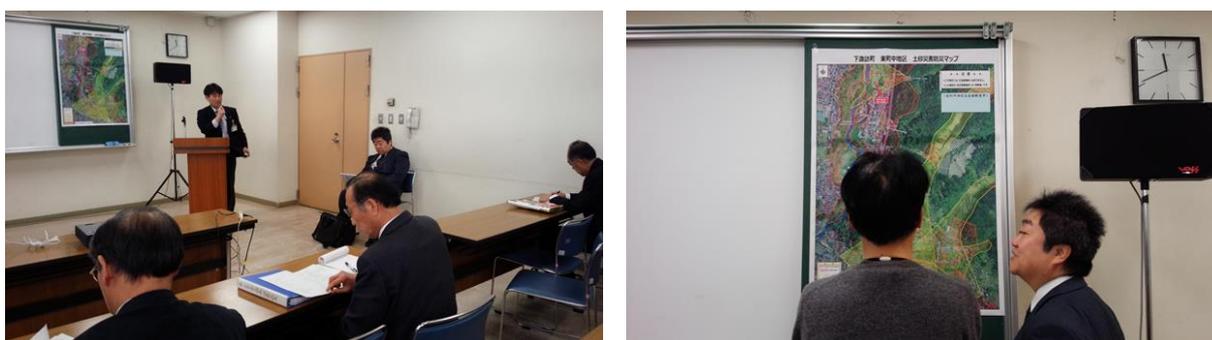
第一区の役員により、過去の水害履歴から被害を受けた場所を地区の防災マップにプロットし、地区の危険個所を図示した防災マップを作成した。



(2) 防災講演会の実施

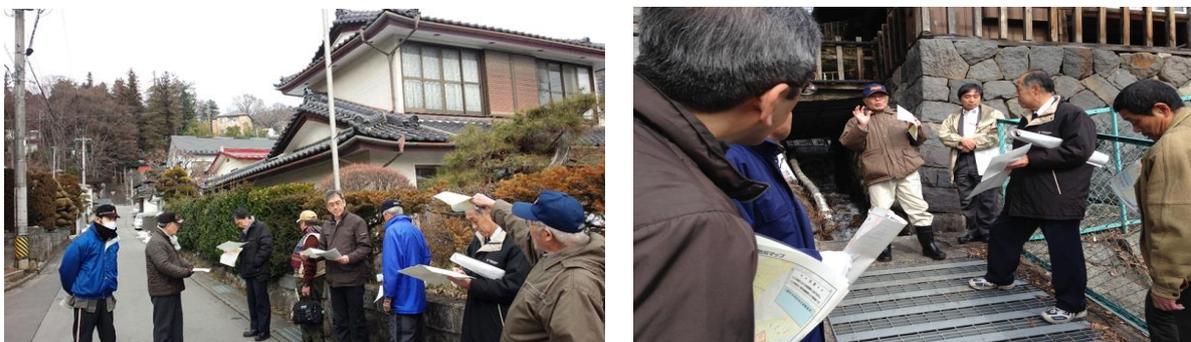
静岡大学地震防災総合センター副センター長の牛山素行教授より、「地域を知り、防災を考える」と題して、講演会を開催した。

講演会では、下諏訪町で想定される災害とその対応について説明された。



(3) 現地調査

ワークショップで作成した防災マップを基に、第一区の役員及びアドバイザーの東京大学小出教授等の参加により、防災まち歩き（現地調査）を実施し、危険個所の状況を把握した後、地区の防災マップ「土砂災害防災マップ」を作成した。



過去に水害が発生した場所

(4) 留意点

雨量計をスマートフォンでモニタリングできるシステムを NTT ドコモの協力で導入し、雨量が 40mm/時に近づくと自分で避難判断できる仕組みを作るとともに、遠方避難をすべきか近傍の 2 階へ避難すべきかを瞬時に判断し、情報共有を行うようにする。

(5) 問題点・課題及び解決策

<地区における課題>

会議及びワークショップ等の作業では、地区の役員を中心に、防災マップの作成を進めたため、一部の住民のみで進めてきたと捉えられてしまうことがあった。

<解決方法>

地区防災計画の策定については、多くの住民の関わりが重要であり、会議等への参加については、地区役員等から直接お知らせを行い、会議へ出られない方々には、事前に地区役員が意見や考え方の聞き取りを行い、計画や防災マップへ反映させることで、より多くの住民の意見が反映されるよう、地区役員が地区住民に対して働きかけを行った。

<行政における課題>

事業説明の際、道路改修やハード整備を要求されるなど、災害時への対応でなく、日常的に感じている要望的な意見が出された。

<解決方法>

本事業に関する行政としての関与や、事業内容を丁寧に説明するとともに、地区の役員とは事前に進め方や役割について綿密な打合せを行ったことで、2 回目以降は進行を行政職員が行うのではなく、地区の役員が説明・進行の主体とする対応へ変えたことで、自らの危険を回避することの気づきが生まれた。また、発表は、同じ町内でもブロックに分けてそれぞれの危険箇所を住民自らがプレゼンすることで、危険箇所発表は大変熱がこもった発表となった。

4. 成果及び今後のスケジュール

- 平成 27 年 3 月 第一区（東町中地区）土砂災害防災マップを作成、住民説明会を実施
- 平成 27 年 5 月 第一区東町中地区避難訓練を実施予定

下諏訪町 東町中地区 土砂災害防災マップ

